岐阜新聞真学塾

出題 螢雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

問　次の文は徒然草の「公世（きんよ）の二位のせうとに」という話です。後の問いに答えましょう。

公世の二位のせうとに、良覚僧正と聞こえしは、きはめて腹あしき人なりけり。（え）

坊のかたはらに、大きなる榎の木のありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。「①この名、しかるべからず」とて、かの木を切られにけり。その根のありければ、「②きりくひの僧正」と言ひけり。いよいよ腹立ちて、きりくひを掘り捨てたりければ、その跡、大きなる堀にてありければ、「③堀池の僧正」とぞ言ひける。

（※注　せうと＝兄弟、腹あしき＝怒りっぽい、坊＝僧の住居、きりくひ＝切り株）

問１　「①この名、しかるべからず」の「この名」とはどんな呼び名ですか。

問２　良覚僧正が「②きりくひの僧正」と呼ばれたのは、なぜですか。

問３　良覚僧正が「③堀池の僧正」と呼ばれたのは、なぜですか。

問４　徒然草の作者と成立した時代を答えましょう。

豆知識 雑学コラム　名は体を表す

今日は「徒然草」の中にある話です。怒りっぽい良覚僧正は名前ではなく、「榎の木の僧正」とあだ名で呼ばれることに腹を立てて、榎の木を切り、しまいにはその切り株を掘り出すもののあだ名が変化するだけで、一向に名前では呼ばれないという話です。

では、なぜ、良覚僧正は名前ではなく、あだ名で呼ばれ続けたのでしょうか。徒然草の中には、その理由が書いてありませんが、文章の言葉から推理してみましょう。まず「良覚」という名前を見てみましょう。「良」という字は「良識」や「良妻賢母」という言葉で使われるように「よいこと、優れていること」という意味の漢字ですよね。また「覚」は「感覚」や「覚悟」という言葉で使われているように「わかること、気づくこと」を意味する漢字です。こうしたことから「良覚」の名前には「良いことがわかる人」という意味の込められた名前だとわかります。一方、実際の「良覚僧正」はというと自分のあだ名に振り回されていて「（自分がすべき）良いことがわかる人」とは言えませんね。「名は体を表す」といいますが、これでは「良覚」という名前と実際の人物像が一致しておらず、これでは「良覚」と呼ばれないことも頷（うなず）けますよね。

読書をするときに登場人物になりきってその心情を理解するのも、一つの読み方ですが、今回のように使われている言葉の意味を考えて分析してみましょう。そうすることで新たな発見があるかもしれませんね。

【解答】

問１　榎の木の僧正

問２　家に大きな榎を切った後の切り株があったから

問３　切り株を掘り出したところに水が溜まったところができたから

問４　兼好法師（吉田兼好）、鎌倉時代